

宮崎市教育委員会との連携協力

宮崎市教育委員会との令和3(2021)年度連携協力事業については、以下のとおりである。

1 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

2 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3、4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

3 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

4 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3、4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

5 その他の活動

宮崎西中学校における学校支援ボランティア

① サマースクール支援（夏季休業中）

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

② 英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

③ 英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3、4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成30（2018）年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

6 ひむかかるた競技大会（令和4年3月19日（土）、アリストンホテル宮崎）

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを併用し規模を縮小して実施

<宮崎県教育委員会主催事業>

スクールトライアル事業への参加（短期：3日間）

昨年度に引き続き、教員を目指す2、3年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供する。

●2年生10名、3年生8名、計18名参加

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力

◎ 令和3(2021)年度業界研究セミナー講師派遣 (宮崎銀行)

本学が実施した業界研究セミナーに、講師として行員を派遣いただいた。

(1) 実 施 日 令和4年1月20日 (木)

(2) 参 加 者 数 5名

(3) 方 法 オンライン開催

◎ 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ(宮崎銀行・宮崎太陽銀行)

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で行う学生の企業・自治体インタビューに行員の方を派遣いただいた。

(宮崎市地元とつながる人材育成支援事業/「宮崎×キャリア」の探求 2021)

(1) 実 施 日 令和3年11月30日 (火)・12月7日 (火)

(2) 参加学生数 宮崎銀行 24名・宮崎太陽銀行 18名

◎ 令和3(2021)年度インターンシップへの本学学生の参加

(宮崎銀行・宮崎太陽銀行)

*夏期インターンシップ (公募) 宮崎銀行 0名、宮崎太陽銀行 2名

宮崎日日新聞社との連携協力

本学では、学生が時事問題や地域の課題について関心を高めるため、新聞を活用した講義（※）を設け、宮崎日日新聞社から、その講義に、記者などを講師として派遣していただいている。

※令和2(2020)年度後期「時事問題ガイド」（主に1年生対象科目）

令和3年10月1日（金）～令和4年1月21日（金）15回講義を実施

令和3年（2021年）10月5日(火)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（1）～宮崎公立大学時事問題講義

新聞を読み方

宮崎の明日

（公立大時事問題講義から）

▽▽1

新聞記事には重要な情報を前後の段落に盛り込み、その補足を後の段落で書いていく「逆三角形」の論理がある。特に第一段落（リード）は記

新聞の読み方

上原幹生（かんばら・みき） 員。1995年入社。お（編集委員長、総務部次長、報道部次長、メディア企画部長など）現職。日向市出身。52歳。

新聞記事には重要な情報を前後の段落に盛り込み、その補足を後の段落で書いていく「逆三角形」の論理がある。特に第一段落（リード）は記

事の要約部分。記事の内容を的確に表現した見出しとリードを読むことで短時間、効率的にニュースの全容を把握できる。新聞の特性の一つ「一覧性」がなせる業だ。

今年の「全国学力テスト」では、新聞を読んでいる児童生徒ほど正答率が高いという結果が表れた。完成された日本語で書かれた記事を読むことで読解力や理解力、語彙力、表現力、考える力が養われる。新聞は国内外の膨大なニュースの価値を判断・整理して掲載しており、政治経済、社会、文化などをあらゆる分野の情報に触ることで知識も増える。また、これまで関心がなかった分野でも、見出いや記事

が何げなく自に入ってくる」とによつて関心を呼び覚まされ、さまざま「気付き」を得られる。この積み重ねによって視野が広がり、物事の本質を見極める力が身に付く。ビジネスシーンでは、仕事相手との良好なコミュニケーションを図るために話題作り、仕事のヒントを得ることにもつながるだろう。

ネットの普及が著しい。速報性や情報量に優れ、手軽にニュースに触れられる一方で、ニュースに触れられる一方で、大量の真偽不明な情報やデマの発信・拡散が社会問題化している。そんな情報時代だからこそ、記者が事実に迫り、丹念な取材に裏付けられた客観性、正確性、信頼性を保つ新聞の存在意義がある。

学生の感想

【1年、一原実花さん】新聞を正しく読んで、情報の取捨選択や意見の形成に役立てたい。

【1年、稻垣洸太さん】新聞とネット記事の違いの説明は、すごく納得できることができた。

【1年、大石奈都美さん】新聞の価値を改めて知ることができた。新聞を読むことは社会についての知識が得られるだけでなく、読解力などの学力面にも影響を与えることが分かった。現在のネット社会に対して、新聞の信頼性からデマなどへの対応もでき、

新聞特有の価値があることを理解できた。

【1年、永田神楽さん】今まで難しそうだという理由で新聞に手を付けていなかつた。新聞の意義、役割、読むコツなどを知ることができ、新聞に興味が出てきた。

【1年、中畠悠花さん】新聞には活字がたくさん載っているので面倒、という理由で読むことを諦めていたが、見出しとリードさえ読めば内容がつかめることを知り、新聞への抵抗感が減った。新聞は情報の取捨選択をスムーズにできる糧となり、自分の可能性をさまざまな方向に広げていける。

（1日公開の講義から）

令和 3 年（2021 年） 10 月 12 日（火）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（2）～宮崎公立大学時事問題講義

五輪・パラ報道

宮崎の明日

宮口と考える

記者「東京五輪の写真報道」

【斎藤編集委員】東京五輪

での柔道男子の井上康生監督
(宮崎市出身)は、2000

年のシドニー五輪では100

キ級で国際的スター選手だっ

た。読者の「知りたい」に応

える地元紙として、現地での

試合内容はもちろん、あらゆ

る情報を紙面で報じるために全

社会を挙げて取り組んだ。

また、歴史的に五輪は政治

利用されてきた側面もある。

スポーツに力があるからそ

だ。それを防ぎ過ぎな商業主

義に走らせないためにも、新

聞がスポーツの持つ本質を報

地元紙の立場で記事

3記者での講義。斎藤真広
編集委員室編集委員「オリン
ピックと新聞」、中野裕一運
動部記者「コロナ禍の東京五
輪取材」、米丸悟写真映像部
長、報道部次長、1年入社。
斎藤真広(さいとう・まさひ
ろ)編集委員。1991年入社。
運動部次長、報道部長、運動部
次長、日南支社長、整理部長
などを経て2021年4月か
ら現職。宮崎市出身。54歳。

【中野記者】今回の東京五
輪での本県関係選手は11人。
コロナ禍であっても、伝える

べき情報を得なければならぬ
い。少しでも選手の内面やサ
イドストーリーに迫れるよう
に、県内の競技関係者や指導
者らに当たり、地元紙にしか
書けないような記事を出すこ
とを心掛けた。コロナに罹患
すると取材が不可能。日常か
ら細心の注意を払った。

【米丸記者】共同通信に出

向し取材班に加わった。1日
の写真配信は、今回の東京五
輪は約1500枚で、前回の
東京大会(1964年)は平均
53枚。デジタルカメラの進化
からだ。写真には記録性もあ
り、現場の雰囲気を分かりや
く伝えるには欠かせない。

学生の感想

【1年、日置勇羽さん】新聞でしか伝わらないスポーツの魅力があると再認識した。個々の選手にスポットを当ててより詳しく取材するからこそ伝わる魅力もある。新聞のスポーツ報道に注目したい。

【1年、日高翫花さん】取材は人脈と地道に綿密な計画が求められると知った。柔道の井上康生さんの取材の歴史を通して、選手と記者という垣根を越えて、地元紙として地域で育てて見守るような関係性を感じた。また、客観的な新聞報道だからこそ、スポーツの政治利用などを抑制する

力があると納得した。

【1年、吉本瑞樹さん】新型コロナの影響でテレビ観戦のみ。「本当に日本でやっているのか」と感じていたが、実際の取材に携わった記者の方の話を聞いてモヤモヤが晴れた。

【1年、藤本萌香さん】新聞記者は、常に時間との勝負で前もって準備しておくことが大切だという話が印象的だった。社会人となる私たちにも当てはまる。

【1年、米良莉湖さん】新聞に使われていた写真が、講義された記者の撮影と知り驚いた。コロナ禍でもあり、取材や撮影の苦労も伝わってきて、興味深かった。

令和3年(2021年) 10月16日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（3）～宮崎公立大学時事問題講義

働き方あれこれ

宮崎の明日

宮崎の明日

(公立大時事問題講義から)

朝ドラ主人公のモネちゃんも悩んだように、地元に就職するか否かは人生の大テーマ。決断のヒントとなる県内企業をいくつか紹介したい。

樋口由香（ひぐち・ゆか） 経済部長
1993年入社。延岡支社、報道部次長、N

C整理グループ編集委員など
を経て2020年4月から現職。
国富町出身。

本県は日本有数の農業県。売上高100億円以上の企業ランディング(2020年度、東京商工リサーチ調べ)を見て、も霧島酒造(都城市)、児湯食鳥(川南町)などに位5社はすべて食品関係が占める。

ICT(情報関連技術)化の波は全産業に波及しており、ピーマンの自動収穫ロボットを開発する「アグリスト」(新富町)など農業ベンチャーも躍進。3D関連ではCG工房(宮崎市)やL・A・B(同)が業績を伸ばす。「スパークジャパン」(宮崎市)の岡田憲明社長など大学在学中に起業した経営者も少なくない。ITベンチャーでは2007年にEBCサイト構築「アラ

タナ」が創業。ZOZOに吸収合併された後も社員たちは本県に残って起業。ユニークな事業を展開している。来夏、青島に完成するNOT A HOTELは伴いの概念を変えるビジネスモデルとして注目される。

新型コロナウイルス禍はテレワークやオンライン会議など働き方を大きく変えた。国が推進する副業・兼業も広がりつつある。

さらに、イラストをオンライン上で販売して生計を立てている男性など、デジタル化の進展は多様な働き方を後押しする。変化のスピードが加速する中、アンテナを高くして多くの可能性にチャレンジしてほしい。

働き方あれこれ

学生の感想

【1年、藤丸さくらさん】
大企業に勤めたら人生が成功に向かうと思っていたが、今の時代は大企業でも倒産するリスクが高く、進化し続ける企業が生き残ると学んだ。

【1年、森崎日南子さん】
宮崎には想像していたより魅力的な企業がたくさんあった。県外出身だが、宮崎で就職するのもいいなと思った。

【1年、末廣桃菜さん】何か大きな挑戦をするには東京や大阪といった大都市に行くしかないと思っていたが、宮崎でも挑戦する機会が平等にあると実感した。

【1年、内村麻里菜さん】
変革の時代で働き方にも多様性が求められていると知り、働くことに対する意識が変わった。これまで宮崎での就職は考えてなかったが、「地元」や「就職」といった形にとらわれず、視野を広げて自分の興味のある分野を探そうと思った。

【2年、吉田瑞姫さん】宮崎関連の企業と国内外のビジネスについての比較が面白く、教養も身に付けることができた。変革の時代、どんなビジネスが生き残るか分からないので常にアンテナを張つてトレンドを知っておきたい。

(15日公開の講義から)

令和3年（2021年）10月30日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（4）～宮崎公立大学時事問題講義

「国文祭・芸文祭」

令和3年（2021年）11月6日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（5）～宮崎公立大学時事問題講義

スポーツと地域

宮田と考える

宮崎の明日

（公立大時事問題講義から）

▽▽5

活躍した。ただコロナの影響で出場辞退も出るなど依然、感染防止に注意が必要だ。

本県でのプロ野球キャンプは今春、無観客で行われ、県

によると経済効果が9割近く落ち込み、さまざま業界が苦境にあえいだ。今月の秋季キャンプから1年半ぶりに観客を入れて行われ、地元への波及効果が期待される。

高校スポーツの大会は新型コロナの影響で昨年度前半、多くが取りやめとなつたが、今年は県総体や全国総体などが2年ぶりに開かれ、選手が

県はシーガイア・オーシャンドーム跡地に「屋外型トレーニングセンター」を整備する。2023年4月に供用開始し、ラグビーのワールドカップ・フランス大会の日本代表合宿誘致が当面の目標。サ

ッカーやラグビーのプロリーグ計8チームを新規誘致し、さらに都城、延岡市などへの

部次長、報道部次長などを2018年から現職。宮崎を経て局長、整理部長、1995年入社。高鍋支社長。50歳。

大山俊郎（おおやま・としろう）運動部長。1995年入社。高鍋支社長。宮崎を経て局長、整理部長、1995年入社。高鍋支社長。50歳。

スポーツと地域

市出身。

呼び込みにつなげる目標を掲げており、「スポーツブランドみやざき」のブランド価値をさらに高める狙いがある。

本県で2027年に開催予定の国民スポーツ大会（国体から24年に改称）と全国障害者スポーツ大会に向け、準備が進められている。前回の国体でもインフラ整備が進んだ

が、今回も陸上競技場などが新設される。こうした施設は大会後も合宿や大会の誘致に活用していく必要がある。競技力強化で力を付けた選手が将来指導者として育成に携わったり、競技が開催された市町村でのスポーツを楽しむ「土壤」がつくられることも大切。ハード、ソフト両面とも将来に生かしていきたい。

する選手を応援したい。

【1年、上野茉菜さん】キャンプや大会に観客や補助員、ボランティアで関わり、円滑な開催・運営に少しでも役に立ちたい。身近な人に伝え、参加する人が増えてほしい。

【1年、山田果林さん】私はダンス部に入っているが、大学祭ではお客様がいて、やりがいを感じられた。スポーツ選手の励みになるような応援をしていきたい。

【1年、藤本萌香さん】キャンプの観光客に「宮崎は優しい人が多い」と思ってもらえるようなおもてなしをしたい。語学を生かし、困っている外国人客と話ができるれば。（5日の講義から）

学生の感想

【1年、森崎日南子さん】2027年の国スポに向けた施設の完成が楽しみ。せっかく宮崎で行われるので、観戦など何らかの形で関わり、大会後も競技を楽しみたい。

【1年、後藤幸来さん】昔からキャンプを見に行ってい。興味が湧いたスポーツは調べたり体験したりしたい。皆で盛り上がれるように、早くコロナが収束してほしい。

【1年、末廣桃菜さん】スポーツに興味がなかったけど、コロナの影響を受けた選手らの思いの強さに心を動かされた。熱心にトレーニング

令和3年(2021年) 11月13日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（6）～宮崎公立大学時事問題講義

県都の行方

宮田と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽6

消費や人の流れを巡る動きも
目まぐるしい。

同駅西口再開発は、開発企

業に県や同市、経済団体が加
わりプロジェクトを進めた。
昨年開業した大型商業施設の
建設では、周辺の商店街への
波及効果も吟味され、宮崎駅
前商店街や若草通り一帯への
導線強化も図られるなど、公
共事業の側面もあった。

6月に鹿島建設、米良電機

、大和開発などの事業者

による再開発が決まった県有

グラウンド事業も同駅の北約

1キロにある。民間企業の誘致

や大学機能の一部移転などが

予定され、学生だけで十人規

模、民間企業なども含めると

2千人規模の人たちが周辺で

仕事や食事をすることにな

る。新たな街が生まれるほど

の大規模開発と言え、周辺へ

の影響は非常に大きい。

検討中の宮崎市厅舎の移転

候補地とされる6カ所も同駅

の徒歩圏内にある。これらの

開発には人口減少に備えた行

政やインフラ機能の集約とい

つた狙いが見える。2040

年の本県の人口は現在より20

万人少ない87万人が予想さ

れ、先手を打った対応は欠か

せないことだ。だが、無駄が

あってもいけない。こうした

事業でも政治が決定権を持つ

部分は多い。身近なまちづくり

に興味を持つことは若者が

政治や選挙に関心を持つきっ

かけになる。来年1月の同市

長選で候補者の議論にも耳を

傾けてほしい。

巣山貴行（すやま・たかゆき）報道部次長

局、整理部、経済部次長などを経て2018年から現職。43歳。

県都の行方

宮崎市出身。43歳。

県都である宮崎市の市中心街地再開発が急速に進んでいる。JR宮崎駅西口再開発や県有グラウンド再開発事業、宮崎市厅舎の移転問題など、

波及効果も吟味され、宮崎駅前商店街や若草通り一帯への導線強化も図られるなど、公共事業の側面もあった。

6月に鹿島建設、米良電機、大和開発などの事業者による再開発が決まった県有グラウンド事業も同駅の北約1キロにある。民間企業の誘致や大学機能の一部移転などが予定され、学生だけで十人規模、民間企業なども含めると2千人規模の人たちが周辺で仕事や食事をすることにな

まちづくりに关心を

る。新たな街が生まれるほどの大規模開発と言え、周辺への影響は非常に大きい。

学生の感想

【1年、横山鈴さん】 街づくりに終わり、完成はないのだと感じた。宮崎市と周辺地域の格差は極端だと思う。県が延岡に体育館、都城に陸上競技場を建設する分散の考えはどうでも良いこと。

【1年、山下梨華子さん】 宮崎駅周辺は明るく活気がある印象だが、高千穂通周辺は交通量が多いが暗いと感じる。街を発展させるためには若い人たちの意見が重要。アンケートなどを実施して若者の声に耳を傾けてほしい。

【1年、四位穂波さん】 課外活動で街市を活性化させる

企画に参加したことがある。街づくりに大切なことが分かるので、できるだけ若者たちの力を借りた方がより街が発展するとと思う。

【1年、吉本瑞樹さん】 街を発展させるためには若者を集めることが一番効果的だと思う。経済を回すためには若者の消費に目を向けることが良いのではないか。

【1年、日高美佑さん】 私たち県民のためにも地方から来た人のためにも、市街地を若者を中心とした人が集まるにぎやかな場所にしてほしい。宮崎市長選もあるため、これから宮崎の変化がとても楽しみ。

(12日の講義から)

令和3年(2021年) 11月20日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（7）～宮崎公立大学時事問題講義

水産業から考える SDGs

宮口と考える

宮崎の明日

（公立大時事問題講義から）

▽▽7

県内ベラン漁師がよく使う言葉「太平洋銀行」。「預けている」のは現金ではなく魚で、適正量の漁獲を続けていれば、利子が付くように、奈須貴芳（なす・たかよし）

部、日南支社、経済部次長などを経て2021年から現職。宮崎市出身。44歳。

水産業から考えるSDGs

報道部次長、2002年入社。制作部、真部、報道部次長。2002年入社。現職。宮崎市出身。44歳。

魚資源は再生され、水産業は永遠に先細りではない。まさにSDGs（持続可能な開発目標）だ。

だが、国内水産業は衰退が続く。養殖を含む日本の2017年の漁獲量は430万トンで、ピックだつた1984年から7割減った。乱獲などが影響したとみられ、資源管理の強化が課題となっている。

一方、ノルウェーではサバ漁などで船ごとに漁獲可能量を割り当てる。収益向上のため、高価格の成魚のみ捕獲するため、早い勝ちの過当競争が起きず、必然的に乱獲が防がれている。

本県で持続的な漁業の代表格はカツオ一本釣り漁だ。一匹一匹さおで釣る漁法で、成

消費が達成の第一歩

魚だけを狙うことができる、群れを取りにくくすることもない。今年は日南市・南郷漁協の12隻が、持続可能な漁業の世界基準を満たしているとして、海洋管理協議会（MSC）本部・英国の漁業認証を県内で初取得した。

まだ認知度の低いMSC認証だが、19年にはマクドナルドが「フレオフィッシュ」に完全認証品の使用を開始。大手スーパーのイオンも取り扱いを拡大させている。海外で「購買は投票と同じ」と言われるほど社会を変える力があるとされる。水産業を口とし、持続可能ななりわいで生み出された商品を選択することが、SDGs達成の第一歩になるのではないか。

学生の感想

【1年、赤嶺小桃さん】SDGsは、今までのやり方を変えていくイメージが強かったが、カツオ一本釣り漁のように、昔ながらの持続的なやり方を再評価することも大切だと気づいた。

【1年、宇都しづかさん】漁業には後継者不足や乱獲などさまざまな問題があるが、解決策の一つとしてMSC認証品の積極的な購入に取り組みたい。海の豊かさを守るために、まずは何か行動することが大事だ。

【1年、内村麻里菜さん】持続的な漁業には、「資源や環境を守る」という理念だけでな

く、もうかりながら水産資源を永久利用できるようなSDGsの観点が重要。乱獲が行われない仕組みづくりも急務。

【1年、元すず菜さん】経済発展が続く中国や中東で魚食が普及し、今後日本が買いつける時代が来る可能性があることに危機感を覚えた。伝統漁法で資源にも優しいカツオ一本釣り漁はもっと見直さるべきだ。

【1年、阿部遥さん】水産資源がうまく永久利用できるようにならなければ、SDGsの観点から、世界中の貧困に苦しむ人々にも届けられるような取り組みも必要になると感じた。

（19日公開の講義から）

令和3年（2021年）11月27日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（8）～宮崎公立大学時事問題講義
新型コロナ新聞報道

宮崎の明日
～公立大時事問題講義から～

▽▽ 8

本県で最初に新型コロナウイルスの感染が確認された昨年3月4日以降、コロナは私たちの暮らしに影響を及ぼし続けてきた。宮崎日日新聞

戸高大輔（とだか・だいすけ） 報道部長
52歳。宮崎市出身。経て2020年から現職。東京支社報道部長、経済部長などを2年入社。1992年入社。

新型コロナ新聞報道

が、その問題をどう報じていたのか振り返りたい。
第1に必要なのは「事実を伝える」こと。本県で何件発生したのか、市町村別はどうか、病床数は足りているのか、といった一次情報は大切な緊急態宣言やまん延防止等重点措置によって、県民生活がどう変わったかも紙面で説明してきた。
解説的な記事もあった。例えば、感染「第5波」に対して「高齢者を中心にワクチン接種が進む中、感染力の強いデルタ株が流行し、行動範囲が広く接種機会が少なかつた若年層を中心に感染が広がった」とした10月4日付の記事がそうだ。アルバイトができずに生活費に苦しんでいる

事実伝え施策点検も

大学生、教務が続々看護師といつた現場の声も紹介した。
第2は「施策点検」。県と市町村の連携、情報開示、医療体制など複数の課題ごとに行政の取り組みを検証した。
第3は「県民・読者への啓発」。心ない声で傷ついた高校生やコロナで家族を失った人を記事にし、誹謗中傷の怖さを伝えた。
以上がこれまでの記事だが、ワクチン接種が進んで経口薬が開発され、県民への行動要請が緩和されていく今後も同じスタンスでいいのか、という問題がある。感染者が出ることを軽く見る訳ではないが、状況の変化にも気を配りながら報道の在り方を模索しなければならない。

学生の感想

【1年、川上鈴奈さん】感染者のプライバシーを保護しながら正しい情報を伝える新聞の在り方にについて難しさを感じた。また、差別や中傷の恐ろしさに関しててもあたらためて考えさせられた。

【1年、洲鎌有登さん】差別や偏見の被害に遭わないように顔を紙面に載せない配慮をしていることはよいこと。各都道府県のコロナ対策の比較や、医療従事者、飲食店経営者の体験談を読みたい。

【1年、中畑悠花さん】新聞社がさまざまな配慮や気遣いをして報道していたことに初めて気付いた。これからも

真実を伝えてほしい。今、コロナ感染が減り、少しずつ生きやすい生活に戻っているが、より未来が待ち遠しくなるような記事を書いてほしい。

【1年、四位穂波さん】マイナスなニュースだけではなく、プラスになることも扱ってほしい。例えばコロナ禍で誕生した新たな文化や科学技術などを伝えてほしい。

【1年、長崎雄也さん】コロナは症状も恐ろしいが、引き起こされる恐怖の念も恐ろしい。感染者を疎むという結果につながるからだ。こういう状況を避けるためにも、メディアは有益な情報を最小限にとどめて取り扱ってほしい。

（26日の講義から）

令和3年（2021年）12月4日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（9）～宮崎公立大学時事問題講義

新聞写真の役割

宮崎の明日
～公立大時事問題講義から～

9

新聞写真の役割

中島雅隆（なかしま・まさき）
映像部長。1987年入社。写真部次長を経て、2015年4月から現職。宮崎市出身。57歳。

新規紙面は記事や写真などバランスよく配置されてこそ見やすく、読む人の理解も早い。デジタル化も重視している。「ラッピング」とい

つて一枚写真を2ページ見開きで掲載したり、季節の便りをパノラマ写真で紹介したり、読者にインパクトを与える紙面づくりに努めている。

写真は記事の正確さと客觀性の証明でもある。政治家や有識者らの顔写真もそうだし、桜の開花宣言や梅雨入りや梅雨明けなどの写真もそう。これらは記事にうそはない。これらは記事にうそはない。

正確さ、客觀性を証明

事の確認し、「取材しながら避難する」よう指示。大変だったと思うが、目の前で何が起こっていれば撮影するがカメラマンだ。

スポーツ面で同一競技を数枚掲載する際は、さまざまなシーンを見逃さないよう撮影している。同じような写真が並ぶと平凡な紙面になり、読者がうまい。次にどういうシ

シーンがあるのか想像しながら、いつでも撮影できる状況を保てるように心掛けている。

スマートフォンで気軽に写

学生の感想

【3年、仲西沙穂さん】情報が集約されている写真の選別は重要である。写真の美しさはもちろん、記事に載っている写真は、読者に分かりやすいもの、という意図で選ばれ情報を凝縮した1枚であるという見方に変わった。

【1年、日置勇羽さん】写真には記者のこだわりがたくさん詰まっている。どの写真を使うかで記事の信ぴょう性や価値まで違ってくる。写真是新聞には欠かせないものだ。

【1年、橋本実咲さん】新聞写真是、いろんな人の努力の上で成り立っている。取材を担当したカメラマンの技量

や考えなどが大きく関わっていることを知った。

【1年、大八木彩登さん】写真が1枚あるだけで、記事の内容を理解しやすくなる。これからは、この写真がどのように撮ったのか想像しながら見てみたい。

【1年、黒川悠惟さん】ドローンなどの最新技術を駆使していることが分かった。ありのままを切り抜き、写真を厳選していることも知った。

【1年、藤丸さくらさん】2枚の写真を人目に付くなど細かな配慮がなされている。取材前から構想を練っていると聞き、さすがカメラマンだと思った。

（3日の講義から）

令和 3 年（2021 年）12 月 11 日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（10）～宮崎公立大学時事問題講義

衆院選

宮田と考える

宮崎の明日

（公立大時事問題講義から）

▽▽
10

10月31日に衆院選の投開票があつた。どの程度関心があつたろうか。

足立希（あだち・のぞみ）
報道部次長。1998年入社。
前首相は10月21日に衆院の任

城支社、総務部次長などを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。45歳。

衆院選

期満了が迫る中、解散・総選挙に打って出られないまま退任。続く岸田文雄首相は就任した10月4日に「14日衆院解散」「19日公示、31日投票」を表明した。解散から投票まで17日間は戦後最短。任期満了を越えての衆院選は現行憲法下で初めてだった。

争点がないとも言われたが、安倍・菅政権をどう評価するかを問われた選挙。県内では、宮崎1区で自民党が9年ぶりに議席を失った。比例で2人が復活し、本県から与野党的5人が当選した。全国的には、自民が単独で過半数を獲得。日本維新的会が躍進し、立憲民主党は苦戦した。

「政治分野の男女共同参画推進法」施行後、初の衆院選

だつたが、女性候補は前回2017年から23人減。比率は17.7%にとどまった。

問題は投票率。県内は53.66%で、前回を下回ったとはいえ過去3番目の低さだった。2週間後の県議補選宮崎市區は18.34%と、県内選挙で戦後最低を記録。投票率の低落傾向は続いている。

政治は難しく、遠く感じるかもしれない。だが特にコロナ禍においては、一斉休校や現金給付、ワクチン接種など、政治によつて物事が動く場面をたくさん見たと思う。

投票は意見表示手段

が変わり、衆院選で投票した。選挙をより身近に感じれば、関心は高まると思う。

【2年、中村麗】政治について難しいというイメージを持つている人が私を含めて多い。講演会のような場で説明してもらえると、理解することができるのではないか。

【1年、永友はるか】政治家には若い人がいないというイメージ。若者の意見を代弁する政治家があまりいないことも、関心の低さの原因だと思う。

【1年、右田友紀】宮崎の選挙事情を知るきっかけとなつた。投票によって権力が生まれるということも考え、次回から投票に行きたい。（10日の講義から）

学生の感想

【1年、松浦果楓】今回の衆院選が初めての選挙で、自分なりに調べて投票した。小さい子どもやお年寄りに対する公約は多いのに、大学生など若い人に対する公約は少ないと感じた。

【1年、飯田紗子】若い世代の選挙・政治への関心を高めるためには、テレビや新聞、SNSで定期的に広報することが鍵だと考える。

【1年、小倉千奈】全く政治に興味がなかつたが、SNSで若者へ投票を呼び掛ける動画を見たり、選挙関係のアルバイトをしたりして気持ち

令和3年（2021年）12月18日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考る宮崎の明日（11）～宮崎公立大学時事問題講義

災害報道

宮崎の明日
（公立大時事問題講義から）

▽▽ 11

押川真基（おしかわ・まさき） 報道部 次長。20歳。水害や土砂災害に見舞われて相次ぎ、本県も毎年のように全国で大規模な自然災害がいる。本紙では災害報道に力を入れ、何より読者や県民に寄り添うことを重視してきた。正確な情報によって危険を知らせて避難などの行動を促し、被災地の置かれた状況を伝え続けることが、県民が防災や被災地に目を向けることにつながると考える。

刻々と変わる状況を逐一発信できるインターネットなどに比べ、新聞は速報性といふ点で優位性は低い。このた

め、台風など予測できる災害の事前報道は、しっかりと自らの面を割く。また、各地の防災活動や専門家の提言をまとめた特集など、教訓を共有でき防災について考えられることを意識している。

今年9月、宮崎市内海で発生した土砂崩れで国道や鉄道が不通となり、住民生活は大きな不便を強いられた。その状況を何度も報じ、記事を出した地元企業が被災地に支援の手を差し伸べた。昨年9月、椎葉村の土砂崩れで4人が犠牲となった。「苦しむ日々は一生続く」。発生後1年の記事では、遺族の悲痛な声を伝えた。被災者の声だからこそ、読者は現実感を持つて重く受け止める。

当たり前と思っていた平常な日常が、災害によって突然奪われる。地元メディアとしてさまざまな観点の記事を提供し地域の防災力が高まれば、県民の命を守ることにつながる。そう信じ、読者の心に届く災害報道を目指したい。

【1年、末廣桃菜】被災者の声を聞くことで災害の怖さを知り、地域の防災意識が高まると考える。

【1年、松山凜】記事を載せ情報を発信し続けることが、被災者と支援してくれる人をつなぐ役割を果たせると感じた。

【1年、永友はるか】自分が住む地域がどのような災害に巻き込まれるかを考えることが大切。新聞は地域に密着した情報を詳しく知ることができるという利点を生かした情報を提供してほしい。

【1年、松本晴太】発生か

教訓共有へ材料提供

学生の感想

【1年、川上鈴奈】正確な情報発信は、災害時ではより重要性が高まると思った。

【1年、山田果林】南海トラフ巨大地震の被害想定を見て危機感を覚えた。空振りを恐れずに避難を促すことの大切さを知った。

【1年、田中夢】災害をより身近に感じさせるためには、被災者の思いや状況を報道し続けることが重要ではないか。

【1年、宇都しづか】防災に関する報道に日頃から目を通し、自分たちの命を守っていきたい。

（17日の講義から）

令和3年（2021年）12月25日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考る宮崎の明日（12）～宮崎公立大学時事問題講義

コロナ禍の中小企業

宮日と考る

宮崎の明日

（公立大時事問題講義から）

▽▽ 12

コロナ禍の中小企業

本県経済の根幹である中小企業がコロナで苦境に立つ。人口減少・高齢化も加速しており、地域の活力を維持し、持続的な発展をなすためには諫山尚人（いさやま・なお）と経済部編集委員な
どを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。50歳。

N.C整理グループ編集委員長、串間支局長、報道部次長、集委員。1994年入社。

本県経済の根幹である中小企業がコロナで苦境に立つ。人口減少・高齢化も加速しており、地域の活力を維持し、持続的な発展をなすためには

諫山尚人（いさやま・なお）と経済部編集委員な
どを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。50歳。

ウスカードは「飲食店の力にな
りたい」と軽量で成型やすい紙の特性を生かし開発。川越紙店の飲食時用紙製マ
スクは「脱プラスチック」で環境に負荷をかけない感染防止アイテムとして購入者の共感も集
める。企業ではないが、県美容業生活衛生同業組合が手掛けたゴムひものないマスクは
顧客に安心感をもたらす。利用者が12都府県に広がる「三方良し」のアイデア商品だ。

個々の事業所が元気に営業を続けていくことが鍵を握る。得意分野を生かし、かつ成功体験にとらわれず、新しい価値を創出してコロナに立ち向かっている事例を紹介する。新規開拓の飲食時用紙製マスクは「脱プラスチック」で環境に負荷をかけない感染防止アイテムとして購入者の共感も集める。企業ではないが、県美容業生活衛生同業組合が手掛けたゴムひものないマスクは顧客に安心感をもたらす。利用者が12都府県に広がる「三方良し」のアイデア商品だ。

得意分野で価値創出

百姓隊は高齢社会に対応し、少ない量でも必要な栄養素を摂ることができる機能強化野菜に活路を見いだす。ボックスミックスの非接触型アンケートシステムは感染リスクを抑え、人口減による人手不足にも左右されない。

コロナ禍の社会はあらゆる行動が制限される不条理に満ちている。透明な先行きを明るく照らし、人々が一歩を踏み出す支えとなるビジネスが求められている。県内でも多様でオリジナリティのある事業所が日々奮闘している。前途有望な若い人たちに地元企業に目を向けてもらいたい、ともに本県経済を回す力となつてもうることが地域の持続的な発展に欠かせない。

学生の感想

【2年、吉田瑞姫さん】スピード感ある中小企業だからこそ地域の需要に応えるサービスを提供できる。コロナ禍で成功しているビジネスを開いているのは大企業が多いというイメージが変わった。

【3年、松崎達英さん】地域に寄り添ったアイデア、創造性を發揮し、新たな強みを見いだしていることが分かった。県内の実例をもっといろいろ知りたくなった。

【4年、永田神楽さん】「誰もやらないことを積極的にやる」「ナンバーワンよりもオニリーワン」など、周りに流されない経営者の考え方、姿勢を見習いたい。

【1年、中水流実樹さん】人のためを思い開発された商品は利用する人に新たな価値を与え、つらいコロナ禍を乗り越える力になる。

【1年、坂元琴音さん】コロナで諦めたことが多くあったが、紹介された企業のように柔軟に対応していく。状況を嘆くだけではなく、今できる最善のことを考え、行動に移す大切さを学んだ。

【4年、原田健太郎さん】それぞれの強み、新たなアイデアを生かし、ときに発想を転換しながらビジネスを実行していく底力に驚かされた。（24日の講義から）

令和4年（2022年）1月8日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（13）～宮崎公立大学時事問題講義

F35B配備計画

宮日と考える

宮崎の明日

（公立大時事問題講義から）

▽▽ 13

F 35 B 配備計画

佐賀信行（さが・のぶゆき）
42歳。
岡市出身。
経済部、えびの支局などを経て、2020年4月から現職。報道部長。2020年2月に新田原基地へ入道。

Bについて、全国の自衛隊基地で初となる配備先に、新富町・航空自衛隊新田原基地が浮上していることが明らかに。最新鋭ステルス戦闘機F35Bは、地元に配備方針を正式に伝えた後、騒音対策として住宅防音工事の助成対象の大枠を示すなどした。これを踏まえ、12月27日、基地周辺5市町などでつくる「新田原基地周辺協議会」は配備計画を受け入れる方向で国と議論を進める方針を確認した。国としてはF35B配備へ道筋が立ったともいえるだろうが、整理すべき課題は多く、地元紙として住民目線に立つた報道を継続するつもりだ。

安全保障、身近な問題

昨年5月には、えびの市と鹿児島県湧水町にまたがる陸上自衛隊霧島演習場で日米仏共同訓練が実施された。この3ヵ国の陸上部隊が国内で実動訓練を行うのは初で、本県を舞台に、多国間連携が新たな展開を見せた形だった。安全保障は遠いようで実は身近な問題。きょうの講義では伝えたいことは、安全保障をテーマにした衆院選運載記事で紹介した元陸将のコメント。中国が身近な問題。きょうの講義では伝えたいことは、安全保障を

学生の感想

【1年、伊東陽太さん】抑止力、防衛力の強化として、F35Bなどを備えることにはとても賛成、納得できたが、どのくらいのラインから「防衛のため」という目的を越えてしまうのか、問題が浮かんできそうだなども思った。

【1年、洲鎌有登さん】F35Bが安全保障の観点から重要な位置付けをされていることが分かった。騒音などの諸問題は大きな課題で、周辺住民の意見が重要だと思う。

【1年、福山莉歌さん】宮崎と安全保障がそんなに深く関わりあっていると思っていました。

【1年、日高響花さん】以前から関心があったが、中国などとの国際関係を考慮した動きがあることを知ってより関心が高まった。住民の安全、快適な暮らしも保障しなければならないため、難しい問題だと感じた。

【1年、米良莉湖さん】初めてF35B配備計画を知った。安全保障については、本県と関わっているということで身近に感じ、これからどうなっていくか、きょうの授業を機に知っていこうと思う。（7日の講義から）

令和 4 年（2022 年） 1 月 14 日（金）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（14）～宮崎公立大学時事問題講義 こども新聞の役割

宮田と考える

宮崎の明日

（公立大時事問題講義から）

▽▽
14

2012年のこの日の誕生日に宮崎市出身。48歳。
猪八重俊樹（いのはえ・としき）生活文化部編集委員。1995年入社。写真撮影などを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。48歳。

2012年のこの日の誕生日に宮崎市出身。48歳。
猪八重俊樹（いのはえ・としき）生活文化部編集委員。1995年入社。写真撮影などを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。48歳。

こども新聞の役割

「こども日線」での情報発信を目指しており、ニュースをはじめ、エンタメ情報、作品投稿などで構成している。学習問題もあり、昨夏からは「質の高い教育をみんなに」を目標の一つに掲げるSDGs（持続可能な開発目標）への一助になれば、新聞販売所と連携。希望する県内の子ども食堂へ無償で提供中だ。

「学び」をどう後押し

創刊前から続く児童生徒が取材、記事化する企画「こども宮崎編集局」の登録者は400人に迫る。過去に登場した小学校教諭となつた卒業生が、受け持つて児童生徒などと一緒に新聞の活用を呼び掛けた。宮崎市出身。48歳。

紙面を飛び出した企画も好评だっただけに、新型コロナウイルスの影響で中断している「じゃーじゃー」の学校訪問の再開が待ち遠しい。2月には紙齢500号。この節目の年は、8月にNIE全国大会宮崎大会を控える。こども向け新聞を含めた新聞がこどもの「学び」をどう後押しできるか。課せられた役割と責任を追求している。

学生の感想

【4年、王安琪さん】ネット時代、良くない考え方がこどもに影響している。正しい価値観をこども新聞で。

【1年、大石奈都美さん】中学受験時のちょっとした時間に読めて助かった。英単語などQRコードを使ったゲーム形式の問題を採用したら面白いと思う。

【1年、児玉慧瞳さん】こども新聞は自分の知りたい情報を探し出す能力を身に付けられる。こども記者は自分の言葉で物事を発信する難しさや楽しさを学べる。

【1年、後藤幸来さん】新

聞で情勢や時事的な問題を考えることは勉強面で差が出る。スマホやタブレットで参加できるゲームに期待。

【1年、高見愛さん】こども記者の存在を初めて知った。何でも不思議に思うこどもの質問の角度は大人と違う面白さ。コミュニケーション能力も高まる。

【1年、藤本萌香さん】新聞はこどもの時からの読む習慣が重要。人気投票のような企画をつくれば「投票」を経験できるいい機会になる。

【1年、藤村優雅さん】ファンションの記事が好きだった。こども新聞は新聞を読むハードルを下げるツールになる。（13日の講義から）

令和4年（2022年）1月22日（土）

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（15）～宮崎公立大学時事問題講義

デジタル時代の報道

宮日と考える
公立大時事問題講義から

宮崎の明日

15

インターネット環境は日々進歩し、本格的なブロードバンドワイヤレスアクセスが一般化したことで、情報はより多く、早く、広く伝えられる

鬼束功一（おつか・こういち）デジタル企画部長。1996年入社。福岡支社報道部次長、経済部編集委員などを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。52歳。

デジタル時代の報道

上の情報は「玉石混交」。エイクニュースのように真偽のはつきりしない情報が拡散し、時には世論を誤った方向へ導き、社会に混乱を招いたケースも見受けられる。

新聞の生命線は、事実の正確な把握とそれに基づく報道。これはデジタル技術を活用した情報発信においても変わることはない。高い信頼性や一覧性といった新聞の強みと速報性や情報量の多さ、動画・音声とのリンクなど互いの強みを生かせる例の

「正しい情報」生命線

一つが、災害・防災に関する報道。被災地や災害が予想される地域に暮らす人々が必要とするのは「ローカルでミクシング」や「オンラインマッチング」といった技術を取り入れることで、そのニーズに応えることができる。

不特定多数が情報の発信者として、受信者にもなりうる人が「メディア・リテラシー」で「真偽を判断・分析・評価する」ことができる。

「メディア・リテラシー」を身に付けることが求められる。学生の皆さんには、それを育成するため、新聞が力を発信する信頼性の高い情報を得たいのならネットやSNSといふ風に、それぞれの長所を捉えて使い分けることも必要だ。

【1年、伊東陽太さん】正しく情報を扱うためには、自分自身で「メディア・リテラシー」を身に付けることが求められる。学生の皆さんには、それを育成するため、新聞が力を育成するため、新聞を役立ててほしい。

【1年、藤山寧音さん】正確な情報を得たいのなら新聞、個人の意見を参考にしたいのならネットやSNSといふ風に、それぞれの長所を捉えて使い分けることも必要だ。

【4年、金丸実幸さん】さまざまなメディアがある中、一つのニュースについて真実かどうかを見極めるのはとても大変。メディア・リテラシーを身に付けるために信頼できるメディアを見つけたい。（21日の講義から）

学生の感想

【1年、伊東陽太さん】一つだけでなく、複数の媒体、サイトなどから情報を見る「クロスチェック」を中心とする。また、そういう教育を子どもの頃から行なうことが大切だと思う。

【1年、重久侑育子さん】デジタル社会において、信頼できる情報源は新聞だと考える。新聞が発信するSNSやウェブページの速報と合わせてニュースを見るようにしたい。

【1年、日高美佑さん】この講義で新聞の足りない部分（速報性）をネットが補える